

# 日英語を中心とした言語の構造的特性と意味解釈に関する研究

**関連キーワード:** 言語学、言語の構造と意味、日英比較対照、言語獲得、同格表現

## 研究内容

・私たち人間の言語はある種の「構造」をもっており、それは「意味解釈」に影響を及ぼすと考えられています。たとえば、「野菜が好きな少女の兄」という表現は、「野菜が好きな」が「少女」を修飾する解釈と、「少女の兄」を修飾する解釈の2つをもちます。これは、修飾の仕方が異なる2つの構造が、2通りの意味解釈を生んでいるからです。私が大きな目標として取り組んでいるのは、生成文法理論という枠組みのもとで、このような、構造と意味解釈の違いを生む仕組みの解明に貢献することです。

・上であげた「構造」と「意味解釈」をもつ人間の言語に関する研究は、様々な話題に及びます。たとえば、「そのような特性は、果たして動物のコミュニケーション体系にはあるのだろうか?」といった話題や「人間の子どもは、そのような特性をもつ言語をどうやって身につけるのだろうか?」、「そのような特性は日本語以外にも見られるのだろうか?」、「そのような特性を知ることは、たとえば外国語学習に役立つだろうか?」などの話題が考えられます。

・このような大きな目標が念頭にありつつも、私が最近取り組んでいる個別の研究トピックは、主として日英語の同格表現です。たとえば、大学で教授として働いている学院太郎さんを指して「学院太郎 大学教授」という名詞句の同格表現を作れますが、これは順番を逆にして「大学教授 学院太郎」とも言えます。両者には意味や使用場面の違いはあるのでしょうか?あるとすればどんな違いでしょうか?英語でも、たとえばFidoという名前の犬のことをthe dog Fidoと言えますが、同じく順番を逆にしてFido the dogのようにも言えます。このときの、日本語との類似点・相違点はどうなっているのでしょうか?このような日英語のデータを基にし、上述の「構造」と「意味解釈」の違いを生む仕組みの研究を行っています。

## 研究者プロフィール

- ・教養教育センター 教授 岸 浩介
- ・専門分野：理論言語学
- ・研究分野：生成文法理論に基づく日英語の統語論及び意味論
- ・所属学会：日本英語学会ほか
- ・主な著書：今井隆・斎藤伸治（編）（2018）『21世紀の言語学』ひつじ書房（「第3章ミニマリスト統語論」（pp.43-110）を担当）



## 地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

・人間の言語について、幅広い年齢の方に向けた講義や講話、解説などができます。以下はトピックの一例です。

- (1) 人間の言語と動物のことばの類似点と相違点
- (2) 私たち人間はどうやって言語を身につけたのか?
- (3) 言語学とはどんな学問か?

・英文法や日本語文法について、幅広い年齢の方に向けて講義や講話、解説などができます。以下はトピックの一例です。

- (1) 日英語の同格表現
- (2) 英語の形容詞による名詞修飾
- (3) 英語の5文型を言語学的に考えると?

## 研究者への連絡先

- ・東北学院大学 産学連携推進センター  
Email [srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:srcenter@mail.tohoku-gakuin.ac.jp)  
電話 022-354-8122